

井上先生のご指導

伊藤 健人

私は、初めて井上先生にお会いしてから今日にいたるまでの数年間ずっと、先生の、ご自身が率先して行動されるお姿と、多くの示唆に富んだ一言一言によって、励まされたり、勇気付けられたり、自分の努力不足に気づかされたりしてきました。特に、博士後期のゼミでは、他のゼミ生達とともに、先生のそのお姿から、研究の方法、研究者としてのあり方、そして何より研究の厳しさや楽しさを教えていただきました。

例えば、ゼミ生がある問題について翌週発表することになっているとき、先生は「じゃあ、私も頑張ってきますわ」とおっしゃることがあります。井上先生の「頑張る」というのは、我々の数倍のものであり、実際、翌週のゼミでは、相当数の論文をお読みになり、多くの示唆に富んだコメントを下さいます。発表者は、先生のそのお姿から、「発表の準備というのは、このようにしなければならないのか」「論文と言うのはこうやって読み込むべきなのか」ということを学びました。

また、ゼミの参加者全員である文献を読み進めていて、我々が「まだだいぶ残っているから、もう2、3回かな」と思っていると、先生が「来週、おしまいで終わらせてしましましょう」とおっしゃったことがありました。続けて、「このweekendに読めるものができましたわ」と笑顔で楽しそうにおっしゃったことをとても鮮明に覚えています。我々は、先生のこのようなお姿を通して、「こんなに読まなければならないものがある」という発想ではなく、「こんなに読めるものがある」という発想が持てるようになりました。

このように、先生は常にご自身の行動をもって我々をご指導下さいます。我々は、先生が相当量の論文を読んでおられるお姿から「私ももっともっと読もう」と、先生が問題点を鋭く指摘されるお姿から「私ももっともっと深く考えよう」と、そして先生がご自身の研究はもちろん、それに加えて、多くのお仕事に精力的に取り組んでおられるお姿から「私ももっともっと頑張ろう」と、いつも励まされます。

また、井上先生がよく言われることとして、「ありがとう」「大変でしたね」などのことばがあります。先生は、学生に対しても感謝・労いのお気持ちをいつもこのようなことばで示して下さいます。私は博士後期過程の3年間、先生のTAを勤めさせて頂きましたが、何度もこれらのことばを掛けていただきました。先生にしてみれば、私の仕事はつたなく中途半端なものであったに違いありません。しかし、一度も仕事の出来についてお小言を頂戴したことはありませんでした。「これは素晴らしいですわ」とお褒めのことばから始まり、「ありがとう」という感謝、「大変でしたね」という労い、そして、「お大事に」という以後の心配まで、フルコースのあたたかいことばを掛けて下さいました。申し受けた仕事が、どんなに時間がかかるものでも、睡眠不足が何日続いても、先生がそうおっしゃって下さると、疲労感・達成感へと変化していきました。そして、その先生のお気持ちにお答えしようと、次の仕事へのやる気がまた沸いてくるのものでした。

先生の行動されるお姿と何気ない一言一言で、我々は自身の研究ばかりか、考え方・生き方まで多くのことを教えて頂きました。数年前から私も未熟ながら教壇に立つ身となりました。井上先生のご指導を受けられたことを誇りに、今後の研究・教育を充実させることで、先生の学恩に報いることが出来るよう努力していきたいと思えます。

井上先生、これまで本当にありがとうございました。そして、これからもご指導のほどよろしくお願い申し上げます。